

## 第3章 Web教材「かごしまの遺跡をたずねて」の活用

### 社会科歴史的分野における活用（調べ学習における活用）

各教科等の指導に当たっては、児童生徒がコンピュータやインターネットなどの情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動の充実に努めるとともに、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることが必要である。そして、各教科の目標を達成するためにコンピュータやインターネットなどの情報手段を有効に活用し、その活用場面で「情報活用の実践力」など情報活用能力を併せて育成することが求められている。

#### 1 中学校社会科歴史的分野の目標

教科指導の中で、コンピュータやインターネットなどの情報手段を活用して情報活用の実践力などの情報活用能力を育成するためには、教科の目標達成の視点と情報教育の視点とを併せ持ちながら指導を行う必要がある。

学習指導要領では、中学校社会科の目標を、「広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」と示している。また、歴史的分野の学習を通して身に付けさせる能力と態度について次のように示している。

(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

様々な資料を活用して、歴史学習において様々な性格をもつ数多くの資料の中から、必要な資料を選択し有効に活用することが大切である。また、個々の生徒の学習活動をより活発で主体的なものにするためには、文献だけでなく例えば絵図や統計などの利用のほか、作業的・体験的な活動により得られた幅広い資料を積極的に活用することが大切である。さらに、歴史的事象を一面的にとらえるのではなく、多面的・多角的に考察することが大切である。

Web教材「かごしまの遺跡をたずねて」は、身近な地域の歴史的事物を取り上げ、様々な資料を活用することによって、歴史的事象を多面的に考察し、併せて表現力や情報活用能力を育成するのに有効である。

#### 2 Web教材の活用

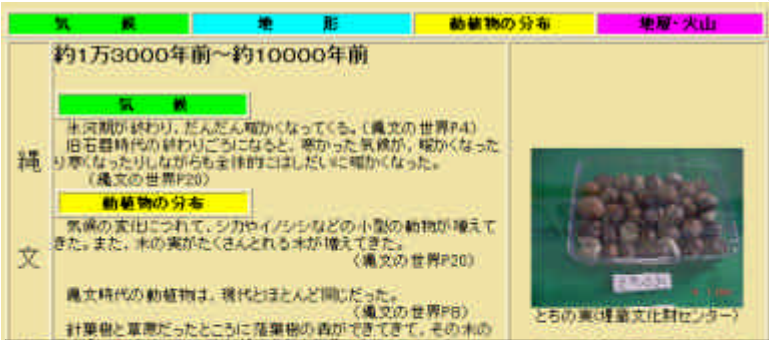

##### (1) Web教材を活用した学習活動の流れ

本Web教材は、上野原遺跡など貴重な遺跡の多い鹿児島県の旧石器時代から弥生時代までの人々の生活や自然環境に焦点を当て、中学校社会科の歴史的分野の調べ学習をする際に有効な教材として開発したものである。Web教材を、教科の単元内容を指導する過程で、教科書や資料集などとともにインターネット上の参考資料として位置付け、問題解決的な学習に活用すれば教

科内容の定着・深化が図れる。

次は、Web教材を授業で活用するため、学習指導案の中に Web教材の内容を挿入して示したものである。Web教材の内容は、遺跡のある各教育委員会や県立埋蔵文化財センターなどの資料を基に、中学生に理解できるよう工夫して作成した。

□□□□部分は、Web教材の内容の一部を示した。

Web教材を活用した学習活動の流れ			
過程	学習活動	時間	指導上の留意点等
導入	1 単元 木の実を食べる人々（縄文時代）		
	2 本時のねらい インターネットを活用して、縄文時代の時期と特色、土器・石器の特徴と使われ方、人々の生活の様子などを調べ理解することができる。		
	3 実際		
展開	1 学習課題を明確にする。 □□□□ 縄文時代の人々は、どんな暮らしをしていたか。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の目標を明確にする。</li> <li>・ Web教材を活用し、課題について調べる。</li> </ul>
	2 教科書（縄文時代）を読み、概略をつかむ。 □□□□ <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気候の変化から、動植物の種類が変化し、狩りの道具が発達した。</li> <li>・ 貯蔵、調理用の道具（縄文土器）などが使用された。</li> </ul>		
展開	3 グループごとにテーマを選択し、Web教材「かごしまの遺跡をたずねて」を活用し、調べる。		
	4 縄文時代の時期と特色を調べる。 問 縄文時代はいつごろから始まり、県内にはどのような遺跡があるか。 リンク集を利用し、他のサイトのホームページも活用する。	30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間指導で、生徒の学習状況を確認する。</li> <li>・ ワークシートに記入させる。</li> </ul>
展開	 <p>約1万3000年前～約10000年前</p> <p>縄文時代</p> <p>気候</p> <p>動物の分布</p> <p>土器・火山</p> <p>約1万3000年前～約10000年前</p> <p>氷河期が終わり、だんだん暖かくなっていく。(縄文の世界P4)</p> <p>旧石器時代の終わりごろになると、暖かった気候が、暖かくなった</p> <p>り寒くなったたりしながらも全体的にはだんだん暖かくなった。</p> <p>(縄文の世界P20)</p> <p>動物の分布</p> <p>気候の変わりにつれて、シカやイノシシなどの小型の動物が増え</p> <p>てきた。また、木の実がたくさんとれる木が増えてきた。</p> <p>(縄文の世界P20)</p> <p>縄文時代の動物は、現代とほとんど同じだった。</p> <p>(縄文の世界P8)</p> <p>針葉樹と草原だったところに落葉樹の森ができてきて、その木の</p> <p>とちの実(埋蔵文化財センター)</p>		
	<p>約1万3000年前～約1万年前、暖かくなってきた鹿児島では、木の実がたくさん採れる森や、シカやイノシシなどの動物が増えたために、縄文文化が早くから栄えた。</p>		 <p>樽ノ原遺跡は日本列島における遊動生活から定住生活への移行を示す代表的な遺跡である。</p> <p>(加世田市郷土資料館のHP)</p>

問 縄文土器の使われ方や色などについてまとめてみよう。



(土器の作り方)



(土器の色と模様)

粘土をこねて器の形を作り，乾燥させてから火で焼くと，粘土がかたく変化して土器とよばれる器になります。この土器は熱にたえることができるので，火にかけて煮たきができるようになりました。実際に，土器の中には煮たきをしたときにくっついたと考えられる黒いススが見られるものがあります。9500年前（縄文時代早期）ころに，鹿児島県上野原で人々が生活に使っていた土器は，円形や四角形の筒状をした土器（円筒土器，角筒土器）で，表面にはきれいな貝がらの文様がつけられていました。こまやかな文様のつけ方やうすくしてしっかりと作られた土器を見ると，今から9500年も前の人々の土器づくりの技術の高さに驚かされます。木の実や動物の肉，魚などは煮ることによってやわらかくなったり，おいしくなったり，生のときより長く保存ができるようになったりします。そのほかに，土器は食料を貯えるためにも使われていました。

上野原遺跡からは，土器や石器が数えられないほどたくさんみつかりました。出土した土器は，平拵式（ひらがこいしき）とよばれる深鉢（ふかばち）形土器，壺（つぼ）形土器，碗（わん）形土器などです。縄文時代早期のころは，煮たき用の深鉢形土器だけが使われていたと考えられていましたが，上野原では，いろいろな形や大きさの土器が使われています。人々は，使いみちや使用する場所，材料などに応じていろいろな土器を使い分けていたと考えられます。また，はなやかで美しい文様の土器が多いのが特徴です。

・ 縄文時代の道具をレブリカでも提示する。



深鉢形土器・壺形土器



鉢形土器・碗形土器



小型土器

写真の出典

(『縄文の世界』財団法人鹿児島県育英財団)

展

開



問 縄文時代の人々はどのような生活をしていただろうか。

写真の出典  
 (『縄文の世界』財団法人鹿児島県育英財団)



展

( 竖穴住居の中の想像 )

( 外の様子の想像 )

竖穴住居の中は、四角や丸に掘り下げられている。左上の写真のように、掘り下げられた場所で、土器を作ったり、木の実をすりつぶしたりしていたと考えられている。

また、周りの場所は、棚(たな)として利用されたり、寝床として利用されたりしたのではないかと想像されている。

動きの速いイノシシやシカなど小型の動物を捕まえるために、弓矢が使われるようになった。梅ノ原(かこいのはら)遺跡では、春から夏にかけては暑さをしのぐため、北側斜面の湿地の近くなどに居住し、川魚や昆虫、キイチゴなどを食べて生活していた。また、秋から冬にかけては北風を避けるため数キロ離れた南側に面した場所に移住し、蓄えたドングリで食いつないでいたとみられる。



煙道付き炉穴(連結土抗)



( 舟形配石炉 )

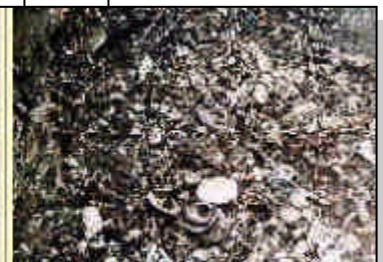
開

問 狩猟・漁労・採集生活をしていただというのは、どのようなことからわかるか。

縄  
文  
中  
期

食料の種類

出水貝塚からは、マガキ・ハマグリ・ウミナ・フトヘナタリガイなどの貝殻が出土し、現在の種類を分類中だが、今分かっているだけでも約20種類の貝が貝塚から出土している。一番多く出土しているのは、マガキである。貝殻に混ざって、割れた土器のかけらや、イノシシやシカなどの獣骨も一緒に出土している。(出水市教育委員会)



出水貝塚のマガキ・ハマグリなどの貝層(出水市教育委員会)

問 縄文時代の石器とその使い方について調べよう。



写真の出典

(『縄文の世界』財団法人鹿児島県育英財団)

展

石器には、動物をとるための矢じりや石槍(いしやり)、とらえた動物を解体したり、毛皮をはいだりするための石匙(いしさじ)、木を切るための石斧(いしおの)、毛皮を加工するための搔器(そうき)などのほか、削器(さっき)、彫器(ちょうき)、くさび形石器、磨石(すりいし)、くぼみ石、石皿などがあります。人々は、使いみちによっていろいろな石器を作り、使っていたと考えられます。

石鏃(矢じり)は、シカやイノシシ、鳥などをとるために矢のさきにつけたものです。とらえる動物の種類や大きさによってちがった石鏃を使っていたと考えられます。石斧には、石を打ち欠いて作った打製石斧(だせいせきふ)と表面を磨いた磨製石斧(ませいせきふ)があります。

上野原遺跡からは両方とも見つかりました。大きなものでは、1kg、小さいものでは、10gのものまであります。木をたおすものや木などを加工するための斧だったようです。

皿、磨石、くぼみ石は、縄文時代のおもな食料であるドングリなどの木の实を割ったり、すりつぶして粉にするための石器です。石皿は、長い間使い続けたためか中央がくぼんでいます。磨石は、手の中に入るぐらいの大きさです。くぼみ石は、磨石と同じぐらいの大きさですが、中央に木の实の大きさぐらいのくぼみがあるのが特徴です。

開



磨製石斧



搔器(そうき)

写真の出典

(指宿市考古博物館  
C O C C Oはしむれ)

問 縄文時代の人々はどのような住居に住んでいたのだろうか。



(復元された竪穴住居)(復元中の竪穴住居)(竪穴住居の中の様子)

写真の出典  
(『縄文の世界』財団法人鹿児島県育英財団)

展

人々が定住を始めると家を立てて住むようになる。縄文時代草創期から、人々は竪穴住居を建てて暮らしていた。竪穴住居とは、四角や丸に穴を掘って、その周りに柱を立て、カヤで屋根をふいたものである。鹿児島市の加栗山遺跡(かくりやまいせき)では、1辺が約2.5mから約5mのものまで大小さまざまなものが発見されている。上野原遺跡では、これまでの竪穴住居とは異なり、柱の跡が垂直になっていたため、元東京国立文化財研究所の宮本長二郎先生は、上の写真のようにドーム型の竪穴住居を考えた。復元作業は、1棟につき大人3・4人で6日間かかった。

問 縄文時代の人々はどのような衣服を着ていたか想像してみよう。

開



組織痕  
写真の出典  
(指宿市考古博物館  
COCOはしむれ)



(想像図)

写真の出典

(『縄文の世界』財団法人鹿児島県育英財団)

縄文人はどんな服装をしていたのか、想像したことがありますか。はだかに近いかったり、毛皮を身にまとって狩りをしていた姿を想像するかもしれませんね。しかし、そうばかりではなかったことが、鹿児島県から多く発見される土器の研究からわかってきました。ふつう、植物や動物などから作られたものはくさってしまうので、縄文時代の布は現在まで残っていません。ところが土器づくりの際に、型からはがれやすくするためにしいた布のあとが残った土器がたくさん発見されたのです。これを組織痕(そしきこん)土器とよびます。この土器の布のあとを研究することによって、当時の服装のことがわかってきました。

- 終末
- 5 調べて分かったことを発表する。
  - 各グループで調べて分かったことを発表する。
  - 6 縄文時代の特徴をまとめる。

10分



(2) 授業実践例

次の吉田町立吉田北中学校の学習指導案は、復習や発展的な学習の後、学習内容の定着・深化を図ることをねらいとして実践した例である。

社会科学習指導案			
<p>1 単元 米を作る村から（弥生時代）</p> <p>2 本時のねらい 稲作の始まりや金属器の使用によって、人々のくらしや社会が縄文時代に比べどのように変わったのか、理解することができる。</p> <p>3 実際</p>			
過程	学習活動	時間	指導上の留意点等
導入	<p>1 教科書（弥生時代）を読む。</p> <p>2 学習課題を確認する。 稲作が始まり人々のくらしは、どのように変わったか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット接続の準備をしておく。</li> <li>学習道具の確認をする。</li> <li>Web教材を活用し、弥生時代への関心をもたせる。</li> </ul>
展開	<p>3 教科書を読み、弥生時代の時期と特色を調べる。</p> <p>4 弥生時代の時期と特色をノートにまとめる。</p> <p>5 Web教材「かごしまの遺跡をたずねて」を使って調べ、まとめる。</p> <p>・ 稲作をしていたということはどのように分かるか調べる。</p> <p>・ 道具の使用がどのように変わったか調べる。</p> <p>・ 弥生式土器の特徴について調べる。</p> <p>リンク集を利用し、他のサイトのホームページでも調べる。</p> <p>6 当時の生活の様子について、他にどんな遺物があるか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高床倉庫</li> <li>石包丁</li> <li>金属器（銅剣、銅鐸）</li> <li>人々の生活の様子</li> </ul> <p>7 当時の生活が、蓄えの差を発生させ、それが支配者の出現を促すことになり、やがて国家が誕生することを Web 教材を使って理解する。</p>	35分	<ul style="list-style-type: none"> <li>紀元前後に大陸から稲と金属器が伝わったことを理解させる。</li> <li>遺跡から出土する農具類の遺物や銅鐸に描かれている絵、土器のみみ跡などから理解させる。</li> <li>インターネットを使って、稲作の始まり、道具の利用、弥生式土器の特徴を理解させる。</li> <li>インターネットを使い、調べて分かったことを記入する用紙を配布する。</li> <li>稲作を始めると、人々が平地に住むようになるが、鹿児島の場合は、地形や土の関係で、あまり移動がなかったことをWeb教材を使って理解させる。</li> <li>新聞、レプリカを使用して説明する。</li> <li>鹿児島にも、他の地方と交流した地域があったことをWeb教材を使って理解させる。</li> <li>稲作や金属器が大陸の人々によってもたらされたことから、稲作用の道具や土器（弥生土器）などが使用され、また蓄えの差から支配者が現れるなど、この時代の特色を理解させる。</li> </ul>
終末	<p>8 本時の学習内容を確認する。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べて分かったことを発表させ、要点を板書する。</li> <li>稲作、道具、弥生式土器、人々の生活の様子の観点から発表させる。</li> </ul>

吉田町立吉田北中学校の学習指導案（一部改）





### 3 授業の考察

実証授業では多くの成果が得られたが、Web教材を活用する上で、いくつかの課題も残った。

#### (1) 生徒の興味・関心や学習意欲の高揚

黒板，教科書，補助教材だけではイメージしにくい縄文時代や弥生時代の生活の様子などを，静止画，イラスト，アニメーションなどを使用した Web教材を活用して授業を行うことにより，歴史を身近なものとして捉えさせ，学習内容に興味・関心をもたせることができた。

#### (2) 教科内容の基礎・基本の定着と深化・発展

写真やイラストを豊富に取り入れた Web教材を活用して学習を進めることによって，縄文時代と弥生時代の生活の様子（遺跡，衣・食・住・社会生活など）を具体的なイメージとして描くことができた。Web教材を活用して学習を行った後，チャレンジコーナーの問題を楽しく解くことにより基本的な内容の習得を促進した。また，ポストテストにより基礎・基本の定着が確認できた。さらに，教科書や資料集に記載されていない鹿児島県の代表的な遺跡（郷土の情報）に触れることで，歴史的な事象を身近なものにとらえさせることができ，教科内容の深化・発展を図ることができた。

#### (3) 生徒の主体的な学習態度の育成

生徒自ら課題を決め，その課題を解決するためには Web教材のどのページを活用し理解すればよいかなどを考えさせたり，調べて分かったことや疑問に思っていることを整理し，発表する時間を設定したりした。このことによって，目的意識をもって自ら意欲的に学習に取り組むなど，主体的な学習態度の育成が図られた。

#### (4) 情報活用の実践力などの情報活用能力の育成

Web教材を活用し学習を進める中で，パソコンの操作やインターネットの活用法が分かり，情報の収集・判断・表現・処理・創造・発信の過程を取り入れることにより，「情報活用の実践力」の育成に役立った。また，調べて分かったことを発表したり，電子掲示板を利用して情報を発信する過程は，「情報社会に参画する態度」の育成に効果的であり，自分が決めた課題を解決する過程は，「情報の科学的な理解」の育成に役立った。

#### (5) 郷土理解の深化

教科内容を学習する際に，生徒にとって身近な郷土の題材を例として示すことにより，鹿児島には貴重な遺跡が多いことが分かり，郷土の歴史に対する理解を深めることができた。

今後の課題として，次のようなことが挙げられる。

Web教材を活用した授業の充実を図るために，技術・家庭科や総合的な学習の時間との連携を密にしてパソコンやインターネットの基礎的な操作を習得させ，生徒のスキルの差を解消することが必要である。また，効果的な Web教材を活用した授業の指導方法と情報活用能力の評価方法を研究する必要がある。